

牛久：学校周辺に見る自然

第2号 みずべ公園

2016年4月20日発行

＜ 駆けぬけるように移り変わる、春のようす ～①動物＞

皆さん、こんにちは。今回は、4月6日にみずべ公園で観察した昆虫や野鳥たちを紹介いたします。

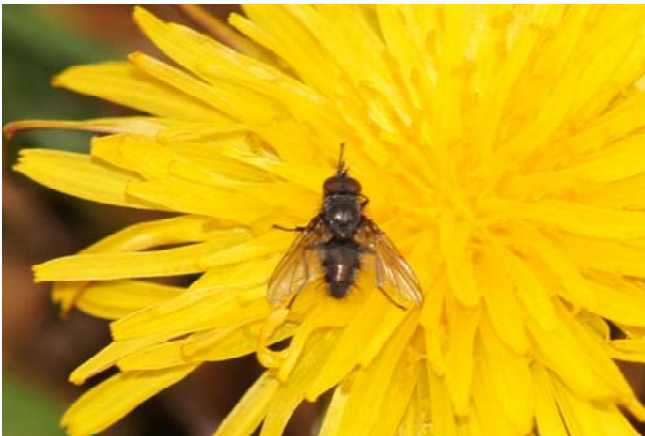


まずは昆虫から。ヤマザクラには、蜜や花粉を求めて、ハナアブの仲間やミツバチなどがたくさん訪れていました。

おなじみのタンポポにも、ハナバエやハナアブの仲間が次々とやってきます。

ミツバツチグリにもハエ、ハナアブ、ハナバチが。春の花には黄色い花が多いですが、花粉を運ぶ虫たちの好みの色とも関係があるようです。

← ヤマザクラの花粉や蜜をなめる、アシブトハナアブ。



タンポポの花粉をなめるハエの仲間(左)と、ハナアブの仲間キタヒメヒラタアブ(右)。



ミツバツチグリの蜜や花粉をなめるハエの仲間(左)とキタヒメヒラタアブ(中)、蜜を吸うハナバチの仲間(右)。



シダレヤナギの花にはケバエの仲間でしょうか、花粉や蜜をなめるものがいました。はじめハチの仲間かと思いましたが、よく見ると複眼が大きく、はねのつけ根に「平均こん」とよばれる後ろばねの退化したものがみつかってハエやハナアブの仲間と分かりました。

← シダレヤナギの花粉や蜜をなめる、ハエの仲間。



ベニシジミ(左上)、ミヤマセセリ(右上)、フデリンドウの蜜をなめる昆虫(左下)。ナミテントウの交尾(右下)。

チョウの仲間ではベニシジミ、ツバメシジミ、ヤマトシジミ、モンキチョウ、キタキチョウ、キタテハ、ミヤマセセリを観察しました。その他、アブラムシのいるところにはテントウムシが。フデリンドウの花の中にもぐって、蜜をなめるものもいました。

ガマ合戦(27年度 29号参考)が見られた池では、おたまじゃくし(ヒキガエル)が生れて、黒いかたまりのように群れ泳いでいました。



黒いかたまりのようになって群れ泳ぐ、ヒキガエルのおたまじゃくし。写真は、あまりかたまってない所を写した。



みずべ公園には一年中いるカルガモ。くちばしの先が黄色いのが特ちょう。陸に上がっていることもあります(右)。

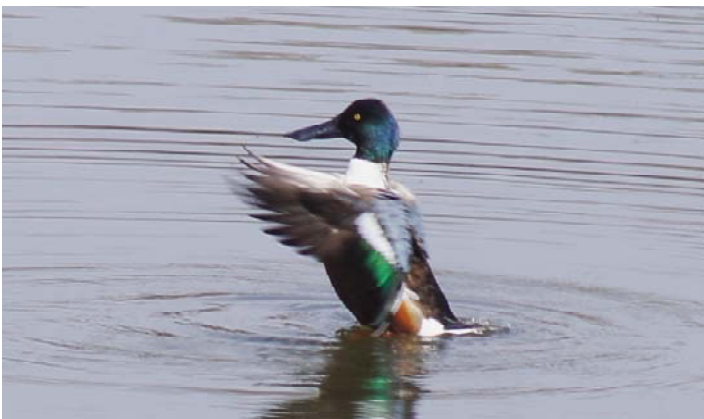


まだ残っていた冬鳥のハシビロガモ。左はメスで、右がオス。



まだ残っていた冬鳥のコガモ(左:オス)と、オカヨシガモ(右:左がオス, 右はメス)。

続いて野鳥の仲間。陸ではシジュウカラが盛んに鳴いており、エナガやコゲラ、メジロなども多く見られました。また水辺では、アオサギやカワウ、カルガモといった、いつ訪れても会える鳥たちの他に、冬鳥のコガモやオカヨシガモ、ハシビロガモがまだ残っていました。カモの仲間が羽をばたば



たさせているのを見かけることがあります。これは体についた虫や汚れなどをはらい落としているのだそうです。その他この日は、えものの小魚を捕えたカワセミも見られました。



【理科支援員：
宮内】

羽をばたばたさせて体についた虫や汚れをはらい落とすハシビロガモのオス(左)と、捕えた魚をくわえたカワセミ(右)。